

2023(令和5)年度 大阪府内地域連携プラットフォーム 事業計画(四半期ロードマップ)

課題	中期計画(2022～2026年度)			2023年度計画				
	目標	数値目標・活動指標	取組内容	2023年度計画	4～6月	7～9月	10月～12月	1月～3月
課題1 大学と高校の有機的な接続・連携の強化	(取組1) 高大連携フォーラム ・高大双方が高大接続の大きな環境変化に関する情報を共有している。 ・高大接続の諸問題を高校と大学が対等な立場で継続的に検討している。	<数値目標> ・活用割合: 会員大学数の60%以上の参加大学数/各年 ・参加者比率: 大学と高校からの参加者数が同程度/計画期間内 <活動指標> ・開催回数: 1回以上/各年	フォーラムの開催によって、高校生がスムーズに大学生活に移行できるように、高大接続の問題点について高校・大学の双方が継続的に議論し、双方の学びの場を改善していく。 特に大学入試改革や新学習指導要領の実施といった背景を踏まえて、大学と高校間で検討を進めるべきテーマについて、関係者のより積極的な情報交換を促す。	「新学習指導要領」への理解促進と高大接続における課題をテーマとしたフォーラムを継続開催する(年2回程度)。	(5月) ・企画検討	(～8月) ・企画案確定 ・登壇者調整 ・広報準備 (9月) ・広報開始	(10月) ・第1回開催、検証 ・第2回の企画案検討 (12月) ・広報準備、開始	(3月) ・第2回開催、検証 (3月) ・検証、まとめ
	(取組2) 会員大学情報の発信 ・高校生のニーズが高い情報を厳選して会員大学から収集している。 ・高校生に届きやすい方法で会員大学情報を発信している。	<数値目標> ・活用割合: 会員大学数の80%以上の大学数/各年 ・ホームページの該当ページの閲覧数: 倍増/計画期間内 <活動指標> ・実施回数: 1～2回/各年	(取組2) 会員大学情報の発信 多くの機関から発信されている大学の多様な情報を踏まえながら、大学コンソーシアム大阪の会員大学共通の案内について、対象者に応じてWebサイトやSNS、紙媒体を有効に活用して発信する。	・HPのリニューアルを行い、下記取組に係る提供情報の精査と掲載内容を検討する。 (各大学のオープンキャンパス情報/大阪の大学「学び」WEBフェア/高校生応援プロジェクト) ・共通大学案内ブックレットを作成・配布する。	(4月) ・オープンキャンパス情報ページアップ ※年間を通じて提供 (5月) ・企画検討 (6月) ・共通大学案内ブックレット作成	(7月) ・オンライン合同説明会 HPアップ ・ブックレット配布 ・高校のニーズ調査実施 (9月) ・高校生応援プロジェクト HPアップ ・高校ニーズ調査 結果公表	※適宜HPの更新を行う	(3月) ・検証、まとめ
課題2 単位互換プログラムのさらなる充実	(取組1) 単位互換事業 ・センター科目と各大学が担当するオンキャンパス科目の役割やねらいが明確になっている。 ・各大学の強み、ネットワークを活かして「大阪の特徴・魅力」を総合的に学べる機会を提供している。	<数値目標> ・学生送り出し校数: 包括協定校の60%以上の大学数/各年 <活動指標> ・実施回数: 1回/各年	センター科目とオンキャンパス科目のそれぞれの特長を活かしながら、学生ニーズを踏まえ、大学コンソーシアム大阪で試行的に実施してきた事業の科目化などによってプログラムを充実させる。プログラムによっては、アフターコロナにおいてもオンラインによる授業を継続し、参加にあたっての地理的・時間的制約を払拭させ、参加者の拡大を図る。	・学部1年生対象単位互換ニーズ調査の結果を踏まえて、提供科目や実施体制、また広報について検討を行う。 ・大学連携による単位互換科目の提供に向けた検討を行う。	(4月) ・単位互換科目募集開始: 全科目 ・前期科目開講 (6月) ・募集状況の確認 ・追加募集(後期科目分)の検討 ・広報ツールの検証、見直し ・南大阪地域大学コンソと協定締結	(7月) ・追加募集(後期科目一覽)HP公開 (8月) ・集中科目開講 ・追加募集(後期科目)開始 (9月) ・後期科目開講	(10月) ・今年度事業の検証 ・アンケート実施内容の検討 (12月) ・単位互換事業説明会	(2月) ・2024年度提供科目集約 ・リーフレット、HP改訂 (3月) ・募集リーフレットを大学へ送付
課題3 キャリア教育プログラムの充実と支援体制の強化	(取組1) 就業体験型インターンシップ ・参加した学生が社会人としての心構えや「働くこと」についての理解を深め、より高い意識で大学での知識・能力・技術の習得に励もうと考えている。 ・留学生、障がい学生、社会人学生など多様な学生と社会をつなぐ機会となっている。	<数値目標> ・学生送り出し大学数: 会員大学数の60%以上の参加大学数/各年 ・参加学生数: 150人以上/各年 ・受入企業数: 100社以上/各年 <活動指標> ・実施回数: 1回/各年	各大学で実施されているインターンシップとはひと味違う就業体験の機会として、産官との連携による特徴的な受け入れ先の拡充や、低年次学生のキャリア支援も意識したプログラムの充実継続に取り組んでいく。	・従来の「教育的目的」を踏襲しながら、夏季期間中に実施する。 ※但し、三省合意の改正を踏まえて、「インターンシップ」の呼称は使用しない。	(4月) ・募集リーフレットを大学へ送付 (5月) ・募集開始 (6月) ・面接・選考	(7月) ・事前研修 (8月～9月中旬) ・実習期間 (9月) ・事後研修	(11月～年度末まで) ・次年度事業の企画調整、準備 (12月～) ・インターンシッププログラム報告書作成	(3月) ・検証、まとめ
	(取組2) プロジェクト型インターンシップ ・参加した学生が現場での経験により、より高い意識で大学での知識・能力・技術の習得に励もうと考えている。 ・学生による提案内容が連携先企業をはじめ、社会的に評価・関心を高めている。	<数値目標> ・学生送り出し大学数: 会員大学数の25%以上の参加大学数/各年 ・参加学生数: 30人以上/各年 <活動指標> ・プログラム本数: 2件以上/各年	課題解決型のプログラムであるため、まとまった期間や日数を確保しやすい低年次学生を主な対象として、理解ある民間企業やベンチャー・スタートアップ企業等も視野に入れた連携先を開拓する。また、プログラムの成果についても広く発信することで、大学コンソーシアム大阪会員大学の学生の意識の高揚につなげていく。	・従来の「教育的目的」を踏襲しながら、夏季期間中に実施する。 ※但し、三省合意の改正を踏まえて、「インターンシップ」の呼称は使用しない。	(～6月) ・企画検討・調整(舞洲) (6月) ・広報準備(舞洲)	(7月) ・広報開始(舞洲) ・舞洲スポーツカレッジの共催 (9月～2月) ・プログラム実施期間(舞洲)	(～11月) ・企画検討・調整(起業) (12月) ・広報準備(起業)	(1月) ・広報開始(起業) (3月) ・プログラム実施(起業) ・検証、まとめ
	(取組3) オンラインプログラム ・参加型では難しかった遠隔地や特殊な現場など、これまで知る機会がなかった仕事について、学生が具体的なイメージを持つことができている。 ・学生が、プログラムを通して企業活動の意義とそこで働く人の役割の一端を理解している。	<数値目標> ・学生送り出し大学数: 会員大学数の25%以上の参加大学数/各年 ・参加学生数: 60人以上/各年 <活動指標> ・実施回数: 3回以上/各年	オンラインの特性を活かし、学生や企業が気軽に参加できるプログラムとして、また、遠隔地や特殊な現場など参加型では難しかった職業を学ぶ機会として、その効果を明確にしながら、受け入れ先や内容の拡充を図る。	・従来の形を踏襲し、低学年を主対象に展開する。 オンラインだけでなく、実地体験や企業人との交流や学びが深化できるプログラムを検討する。(テーマ例: 「働く」について学ぶ、自己理解、業界研究、起業)	(～9月) ・企画検討・調整 (9月) ・広報準備	(10月) ・募集開始 (11月～年度末まで) ・第1～3回開催	(3月) ・検証、まとめ	
	(取組4) キャリア支援事業 ・時宜に応じたキャリア支援の課題に産官学が連携して対応している。(就職に困難性のある学生に対する支援、学生の多様性に対する支援など) ・就職支援のための関連団体との連携が拡大し、充実した支援を実施している。	<数値目標> ・参加大学数: 会員大学数の25%以上の参加大学数/各年 <活動指標> ・開催回数: 1回以上/各年	学生のキャリア支援に関する大学のニーズや課題、取り組み内容を共有し、外部組織とも連携しながら、学生や担当教職員向けの支援策を産官学が協力して検討する。	・三省合意の改正を受けて、インターンシップやキャリア支援教育プログラムの取り扱いが流動的なことから、当面の間それぞれの観点で踏まえながら検討を進める。 ・キャリア支援担当教職員向け研修を実施する。	(～5月) ・キャリア支援推進準備委員会から「推進委員会」に改組、インターンシップ推進委員会と合同による検討 (7月) ・大阪府と共催による大学教職員向けセミナーの開催(第1回) (9月) ・大阪府と共催による大学教職員向けセミナーの開催(第3回)	(10月) ・具休案、次年度の方向性の検討 (12月) ・大阪府と共催による大学教職員向けセミナーの開催(第3回)	(～3月) ・検証、まとめ	
課題4 国際交流の活性化	(取組1) 他国・他地域との国際交流事業 ・明確な目的をもって、国際交流事業を実施している。 ・さまざまな交流プログラムを検討・実施している。	<数値目標> ・交流事業数: 延べ5事業/計画期間 <活動指標> ・交流事業数: 1事業/各年(再開以降)	これまで大学コンソーシアム大阪で実施してきた台湾との交流事業の実績を踏まえて、対象を教職員や学生に拡大し海外・他地域との交流も進めていく。交流先の発掘や交流プログラムの企画・運営にあたっては、外部の専門機関との連携等によって効率的・効果的に取り組むこととする。	・台湾側(FICHET)に交流継続有無の意向を確認する。	(～以降、継続) ・交流の意向確認		(～3月) ・次年度に向けた動きの整理・まとめ	
	(取組2) グローバル人材育成事業 ・日本の現状と課題を認識し、グローバルな社会課題の解決策を考えるきっかけとなっている。 ・多文化共生・異文化理解、ソーシャル・インクルージョン(社会的包摂)という価値観を育む機会となっている。	<数値目標> ・講座受講者数: 延べ300人以上/計画期間内 <活動指標> ・講座開催回数: 2回以上/各年 ・国際交流イベント開催回数: 1回以上/各年	プログラムの充実にあたっては既に多様なアイデアが出されていることから、外部の専門機関との連携等により、効果的なアイデアを選択していく。また、学生だけでなく、教職員や社会人の参加も視野に入れたプログラムを検討し、大阪・関西万博と連動する活動や学びが実践できる場を提供する。	・グローバル人材育成講座 年2回開催する。(夏季・冬季で設定) ・学生主体による「国際交流イベント」を開催する。(下半年)	(6月) ・第1回企画検討	(～6月) ・広報準備、開始 (8月) ・第1回講座開講	(11月) ・第1回の検証 ・第2回企画の検討 (12月) ・広報準備、開始	(2月) ・第2回講座開講 (3月) ・検証、まとめ
	(取組3) 学生英語プレゼンテーションコンテスト ・学生が発表に至るまでにグループワークを重ね、プレゼンテーションスキルを学ぶ機会となっている。 ・国際共通語としての「英語」を用いて、国際的な共通課題の解決策を斬新な発想で考え、意見交換する機会となっている。	<数値目標> ・出場チーム数: 15チーム以上/各年 ・参加者数: 英語圏以外の留学生の参加増/計画期間内 <活動指標> ・開催回数: 1回/各年	本プログラムは単に英語力を競うコンテストではなく、学生自らが社会的課題に取り組む方策を考え、提案する点を重視しており、この点に対する評価軸を再確認しながら参加大学の拡大を図っていく。	・従来の形を踏襲しながら、より多くの学生が参加できる方策や、学生のアイデアを英語で広く発信できるような内容として拡充する。	(5月) ・企画検討	(6月) ・発表者募集開始 (9月) ・学生運営メンバー募集、活動開始	(10月) ・プレゼンコンテスト一般視聴者募集 ・企画の最終調整(～11月) (12月) ・コンテスト開催	(～3月) ・検証、まとめ

課題	中期計画(2022～2026年度)			2023年度計画				
	目標	数値目標・活動指標	取組内容	2023年度計画	4～6月	7～9月	10月～12月	1月～3月
課題5 地域連携の促進による 大阪・関西の活性化	(取組1)地域連携学生フォーラム in Osaka ・大学と行政・事業者等のコラボレーションが自発的に起こっている。 ・学生の提案事項や連携のノウハウが蓄積され、それらを大学コンソーシアム大阪の会員大学や自治体が共有している。 ・大阪・関西万博に向けて、学生がつながり、関わる場となっている。	<数値目標> ・発表大学数: 会員大学数の50%以上の参加大学数 / 計画期間内 ・参加する行政・事業所数: 15団体以上 / 計画期間内 <活動指標> ・開催回数: 1回 / 各年	地域連携のノウハウの共有や学生の地域連携に対する意識向上の機会という目的は維持しながらも、フォーラムの企画・運営や発表、傍聴といった多様な参加形態を通じた交流の拡大を図る。特に学生による企画・運営では、毎年の運営内容への変化を恐れず、学生の主体性を重視して取り組むこととする。	・学生フォーラムの発表エントリー数増や学生がより主体的に参画できる内容として拡充する。 ※上記を踏まえ、数値目標を「発表大学数」のみならず、様々な形で参画により会員大学数の50%以上の参加を目指す。	(4月～) ・企画検討 ・広報準備、開始 (発表者、学生運営メンバー) (5月) ・学生運営メンバー活動開始	(8月) ・学生発表者決定 (9月～) ・広報準備、開始(一般参加者)	(10月) ・フォーラム開催 (11月) ・まとめ・検証 ・プログラムの企画検討	(～3月) ・次年度の方向性の検討
	(取組2)地域連携情報交換会 ・大学と行政・事業者等のコラボレーションが自発的に生まれている。	<数値目標> ・参加大学数: 会員大学数の50%以上の参加大学数 / 計画期間内 ・参加する行政・事業所数: 10団体以上 / 計画期間内 <活動指標> ・開催回数: 1回以上 / 各年	自治体ニーズや情報収集、ネットワーク形成の場として開催を継続しながら、自治体や地域で活動しているキーパーソンの話題提供などによってプログラムを充実させ、大学の参加を拡大する。	・地域連携をテーマに気軽に参加可能な交流サロンを継続、拡充する。(年3回程度開催)	(6月) ・企画検討	(～9月) ・企画案整理(テーマ決定)	(10月) ・第1回広報準備、開始 (11月) ・情報交換会 開催	(1月) ・第2回 情報交換会 開催 (3月) ・次年度の方向性の検討 ・検証・まとめ
課題6 研修による大学教職員の 資質向上とネットワーク強化	(取組1)各種研修事業 ・大学のニーズに応じた研修を実施している。 ・研修講師を担える人材の育成が図られている。	<数値目標> ・教職員送り出し大学数: 会員大学数の25%以上の参加大学数 / 各年 <活動指標> ・実施回数: 2回以上 / 各年	大学職員を対象とした初任者SD研修については、蓄積されてきたノウハウを活用して継続していくこととし、大学が共通して抱える課題や会員大学のニーズに沿った研修についても開催を検討する。これらプログラムの拡充にあたっては、委員の負担軽減やプログラムの質の保証を担保する。	・会員大学の共通研修の位置づけで初任者SD研修を継続実施する。 ・会員大学のニーズに応じたSD研修を検討・実施する。	(5月) ・企画検討 (～6月) ・広報準備、開始	(7月) ・初任者研修(第1回)開催 (8月) ・初任者研修(第2回以降)、その他の研修に係る企画検討	(10月) ・初任者研修(第2回)開催 ・企画検討 (11月) ・初任者研修(第3回)開催	(1月) ・広報準備、開始 (2月) ・研修開催 (3月) 検証、まとめ
	(取組2)サロン・大学コンソーシアム大阪 ・参加者が主体的に情報交換や交流を行っている。	<数値目標> ・会員大学の参加率: 会員大学数の60%以上の参加大学数 / 各年 <活動指標> ・開催回数: 3回以上 / 各年	参加者のニーズを把握しながら、大学教職員が直面する喫緊の課題を取り上げ、現場の課題に即した情報交換や意見交換の場を継続して提供していく。テーマ設定の工夫などによって多くの教職員等の参加を促進し、ネットワーク形成の場としても機能させていく。	・情報交換や意見交換が求められる共通課題を取り上げながら、より多くの参加者が参加できるテーマや開催方法を検討し、実施する。	(5月) ・企画検討	(8月～) ・企画及び登壇者調整	(10月) ・サロン(第1回)開催 (11月) ・サロン(第2回)開催 (12月) ・サロン(第3回)開催	(3月) 検証、まとめ
課題7 大阪の様々な課題に対応した取 り組みの拡充	(取組1)学生ボランティアの拡充 ・事業の企画運営に学生が主体的に関わる機会が創出されている。	<数値目標> ・学生の参加数: 各部会事業への企画・運営に関わった学生数延べ200人 / 計画期間内 <活動指標> ・既存事業やその他事業へ学生ボランティア参画: 2事業以上 / 各年	各事業に関わる学生ボランティアや学生サポーターの受け皿を大学コンソーシアム大阪事務局で一本化し、大学コンソーシアム大阪の企画・運営委員会において学生活動の支援方法を検討のうえ、各部会で実施する事業等において対応可能な形で、学生が主体的に活躍できる場を創出する。	・事業の方向性を整理しながら、学生の(社会)課題への主体的な参画を促進する機会を提供する。	(～5月) ・企画検討、広報準備 (6月～) ・広報開始	(7月) ・ACT活動報告会 & 交流会開催 ・検証	(10月) ・イベント開催 ・検証	(3月) ・検証、まとめ
	(取組2)連携調査・研究の実施 ・事業の企画運営に学生が主体的に関わる機会が創出されている。	<数値目標> ・連携調査・研究実施数 延べ15件 / 計画期間内 <活動指標> ・連携調査・研究テーマ数 2テーマ以上 / 各年	2021(令和3)年度に実施した「新入生薬物意識調査」のように、大学間や産官学が共通して取り組むべき課題や事業拡充のための調査・研究を実施し、その結果を各大学での教育や研究、学生支援、大学経営、また地域活動等に活かしてもらい取り組みを進める。	①産官学の連携によるIR(Institutional Research)の実施 ・学生の大学新入時の薬物に対する意識の把握と今後の学生生活における薬物乱用防止啓発の観点から、継続して調査を実施する。 ・調査結果をもとに共同IRを実施し、各大学での学生の生活指導の一助としてもらうとともに、産官学協働による啓発活動の検討材料とする。 ②中期計画に即した大学コンソーシアム大阪 会員大学の提案型調査・研究の推進 ・会員大学の主体的な参画・協力による事業の改善、充実等につなげていくことを目的に、中期計画で取り組む課題に一致するような研究事業を継続して実施する。	(4～5月) ・薬物アンケート調査実施 (4月) ・企画検討、広報準備 ・公募事業募集 ・広報準備 (5月末) ・公募事業選定	(6月) ・公募事業開始(～2月末) (～8月) ・薬物アンケートまとめ ※9月の共同IRの実施と連動	(10月) ・公募事業開始(～2月末) (11月) ・公募事業 中間報告会	(3月) ・検証、まとめ
	(取組3)地域課題に対応した取り組みの推進 ・産官学連携による課題解決体制が整備されている。	<数値目標> ・実施事業数 延べ5事業 / 計画期間内 <活動指標> ・実施事業数 1事業以上 / 各年	当プラットフォームにおいて、大阪地域における高等教育グランドデザインに係る協議を継続しながら、その実現に向けて大阪の産官学連携による取り組みを推進する。これによって、大学だけでは完結しない課題(例、リカレント教育、学生の就職支援など)や産官学協働による取り組みが求められる課題について、取り組み内容の検討や役割分担等、具体的な推進体制を構築する。	・注目度の高いテーマに基づき、プラットフォームが主催する公開講座や研修等を継続的に開催する。 ・取組2の「新入生対象薬物意識調査」の結果に基づき、共同IRを実施する。これにより産官学で若者の現状を共有しながら各大学での学生の生活指導の一助としてもらう。 ・リカレント教育プログラムに関心の高い大学及び産官の意見交換会を実施し、今後の展開に向けた検討を行う。さらに大阪商工会議所の協力を得て、社会人ニーズ調査を実施する。	(4月) ・大阪PF主催企画の検討 ・調査内容調整 (5月) ・リカレント教育推進に係る意見交換会実施 (6月) リカレント教育に取組の企画検討	(7月) ・大阪PF主催プログラムの募集・実施 (8月) ・各大学のリカレント教育プログラム一覧公開 (HP)にて ・大阪PF主催FD研修実施	(9月) ・共同IRの実施(薬物意識調査に基づく) ・上記にかかる結果をHPに公表 (11月～) ・リカレントプログラムの事業案検討	(～3月まで) ・検証、まとめ
	(取組4)大阪・関西万博との連携 ・万博への積極的な参画を通じて大阪・関西の活性化に寄与している。	<数値目標> ・実施事業数 延べ10事業 / 計画期間内 <活動指標> ・実施事業数 2事業以上 / 各年	2025年大阪・関西万博開催に合わせて、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会と連動したシンポジウムの開催や大学コンソーシアム大阪会員大学による大阪・関西万博のテーマに沿った活動の企画を行うなどの連携事業を展開する。	・万博に向けた会員大学共同で取り組める施策を検討する。	(5～6月) ・万博協会との意見交換	(8月) ・万博協会との連携推進に係る協定締結 (9月) ・順次、連携事業を実施		